

3. 地域コミュニティ別にみた見附市の現状と課題

(1) 地域コミュニティの概要

1) 地域コミュニティとは

本市では、平成 18 年 3 月に第 4 次総合計画を策定し、その中で「住みたい 行きたい 帰りたい やさしい絆のまち」という基本理念を掲げ、さらに「市民と行政の協働の推進」を基本施策の一つに掲げています。その中で地域自治の運営の支援として、平成 18 年度から「地域コミュニティの構築」に向けた取組をスタートしました。

地域コミュニティとは、町内会、青少年育成会など、地域のために活動している組織や個人の活動を結びつけ、より大きな力として地域に役立てるものです。また、地域コミュニティは、地域の人全てが何らかの形で関わるができるオープンな組織です。なお、地域コミュニティの区域は、おおむね小学校区単位となっています。

本市では、地域コミュニティが実施するまちづくり事業の活動費や地域雇用職員の人件費を補助しています。将来的には、住民にとって身近な行政サービスについても、地域で実施することができるようにしていきたいと考えています。

【地域コミュニティ活動の実践例】

- ・地域の茶の間：誰でも気軽に寄って、そこで一緒になった人とお茶を飲みながら話をしたり、食事をしたりできる場。元気をもらえる場。
- ・学校応援団：児童・生徒と地域住民の交流イベントなどを実施。地域住民と児童・生徒の橋渡し役。
- ・地区民大運動会：健康づくりと地区民の親睦。
- ・花いっぱい運動：地域の個性を生かした地域づくりと環境保全の推進。
- ・防犯パトロール：子供たちの登下校時の安全を守る取組。

(以上、見附市HP「見附市の地域コミュニティ」より抜粋して整理)

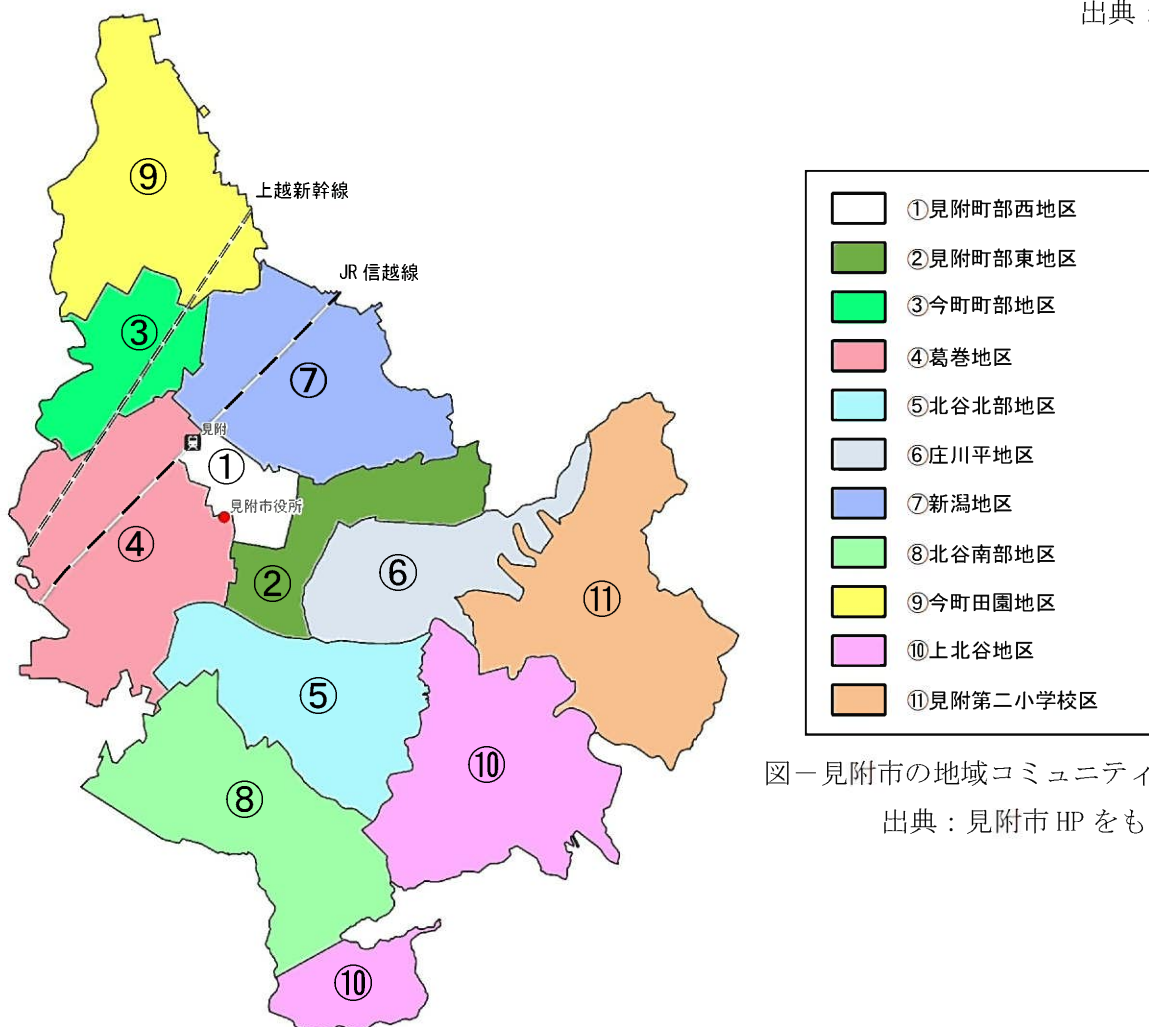
2) 地域コミュニティ区分と組織

本市には現在11のコミュニティ組織が存在しています。

表一見附市の地域コミュニティ一覧（令和5年8月現在）

地区名	エリア	コミュニティ組織
①見附町部西地区	見附小学校区の一部18町内	西地区スマイルコミュニティ
②見附町部東地区	見附小学校区・名木野小学校区の一部48町内	まちなか東コミュニティ
③今町町部地区	今町小学校区の一部30町内	今町まちなかコミュニティ
④葛巻地区	葛巻小学校区27町内	葛巻地区まちづくり協議会
⑤北谷北部地区	名木野小学校区の一部10町内	北谷北部くさなぎコミュニティ
⑥庄川平地区	見附小学校区の一部9町内	いこいの郷（さと）庄川平コミュニティ
⑦新潟地区	新潟小学校区12町内	こみゆにてい ほっと新潟
⑧北谷南部地区	田井小学校区6町内	北谷南部みつばコミュニティ
⑨今町田園地区	今町小学校区の一部5町内	ほのぼの田園地区ふれあい協議会
⑩上北谷地区	上北谷小学校区7町内	上北谷ゆめづくり協議会レインボー
⑪見附第二小学校区	見附第二小学校区2町内	第二小区やすらぎの郷（まち）コミュニティ

出典：見附市HP



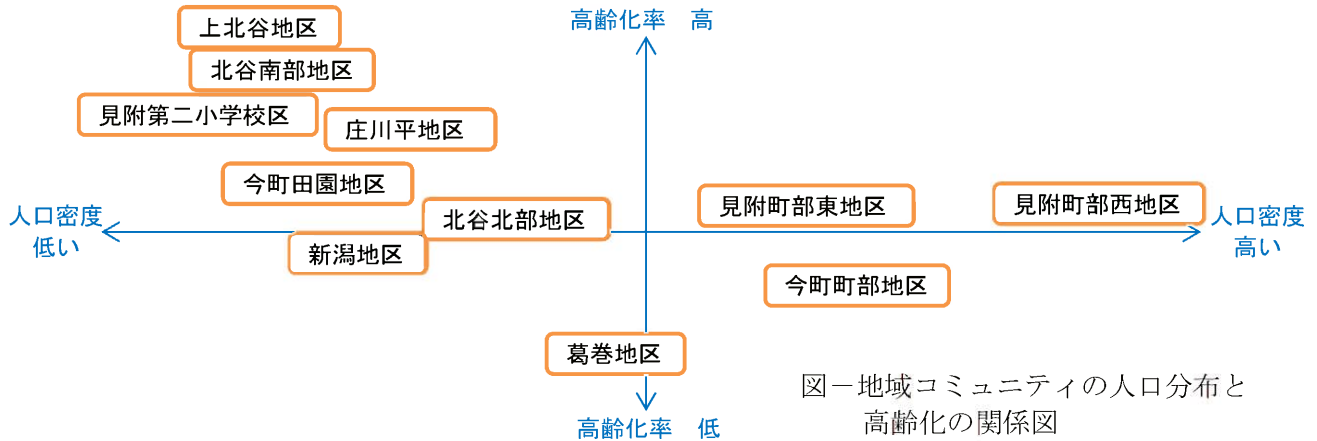
図一見附市の地域コミュニティ区分図

出典：見附市 HP をもとに作成

(2) 地域コミュニティ別の状況と課題整理

1) 人口密度、高齢化等の状況

地域コミュニティ別に人口密度や高齢化率をみると、以下のような傾向が見られます。



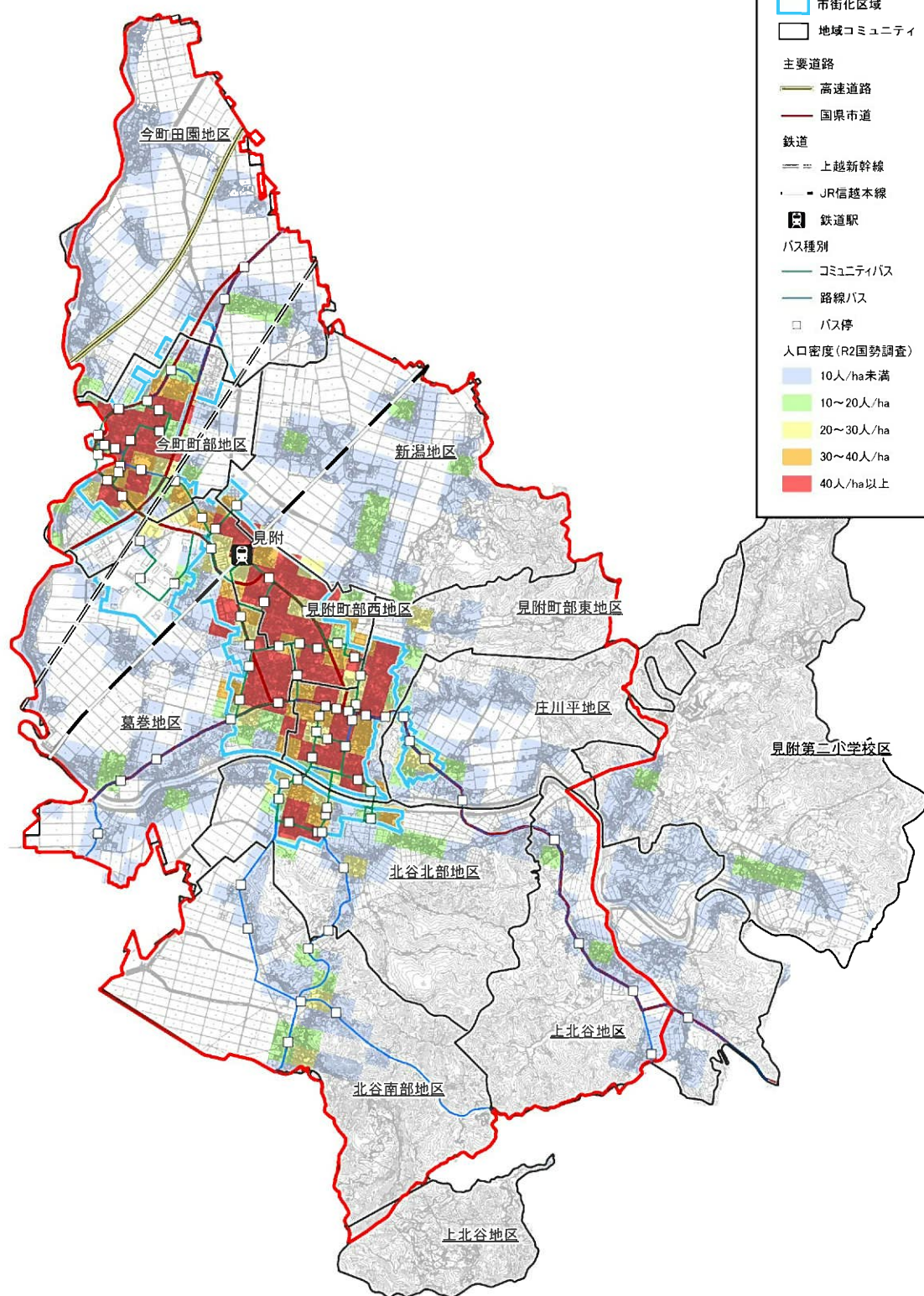
図一 地域コミュニティの人口分布と高齢化の関係図

表一 地域コミュニティ別の人口・人口密度・高齢化率

	データ出典	人口（人）		人口密度（人/ha）		高齢化率	
		R2 国勢調査 （小地域人口按分）		人口と面積値より 算出		R2 国勢調査 （小地域年齢構成）	
		区域別	合計	区域別	平均	区域別	平均
見附町部西地区	市街化区域	6,523	7,198	46.0	41.6	34.72%	35.21%
	市街化調整区域	675		21.7		39.88%	
見附町部東地区	市街化区域	5,662	7,127	40.2	17.7	33.81%	34.26%
	市街化調整区域	1,465		5.6		35.99%	
今町町部地区	市街化区域	5,657	6,870	25.4	18.5	31.19%	30.82%
	市街化調整区域	1,213		8.2		29.07%	
葛巻地区	市街化区域	5,005	7,563	19.0	7.9	23.84%	25.31%
	市街化調整区域	2,558		3.7		28.23%	
北谷北部地区	市街化区域	2,354	3,634	36.7	5.4	30.41%	33.82%
	市街化調整区域	1,280		2.1		40.09%	
庄川平地区	市街化区域	403	1,011	18.6	2.4	41.04%	41.47%
	市街化調整区域	608		1.5		41.74%	
新潟地区	市街化区域	60	1,688	5.9	2.1	12.99%	31.99%
	市街化調整区域	1,628		2.1		32.69%	
北谷南部地区	市街化区域	0	1,179	0.0	1.4	0.00%	44.04%
	市街化調整区域	1,179		1.4		44.04%	
今町田園地区	市街化区域	8	1,209	0.6	1.5	34.09%	36.91%
	市街化調整区域	1,201		1.5		37.01%	
上北谷地区	市街化区域	0	1,130	0.0	1.3	0.00%	45.75%
	市街化調整区域	625		1.3		48.36%	
	都市計画区域外	505		1.2		42.57%	
見附第二小学校区	市街化区域	0	596	0.0	0.6	0.00%	42.79%
	市街化調整区域	2		0.1		37.68%	
	都市計画区域外	594		0.6		42.76%	

※この表は国勢調査小地域集計データを地域コミュニティ別に按分したものであるため、実際の地区別人口と異なる場合があります。

【現況人口分布】



出典：R2 国勢調査

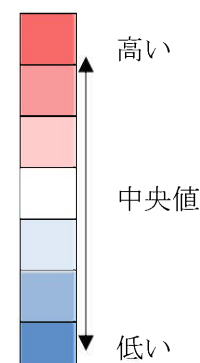
2) 生活サービスに係る施設充足度の状況

地域コミュニティ別に施設の立地状況を整理します。

各種施設のうち日常的な生活サービスに係る施設（医療・福祉・商業・交流施設・都市公園）を抽出し、施設から徒歩圏にどの程度の人口が含まれるか（徒歩圏人口カバー率）を算出すると以下のとおりとなります。基本的に人口密度が高い見附町部西地区、見附町部東地区、葛巻地区、今町町部地区に各種の施設が集積し、施設の徒歩圏カバー率が高い傾向になります。

表一地域コミュニティ別の生活サービス施設徒歩圏カバー率

	施設配置			交流空間
	商業施設 徒歩圏 人口カバー率	医療施設 徒歩圏 人口カバー率	福祉施設 徒歩圏 人口カバー率	交流施設・ 公園徒歩圏 人口カバー率
見附町部西地区	99.8%	100.0%	99.8%	99.5%
見附町部東地区	95.9%	95.4%	90.8%	100.0%
今町町部地区	95.9%	91.4%	92.9%	99.1%
葛巻地区	81.9%	77.1%	81.0%	91.0%
北谷北部地区	54.8%	15.0%	76.8%	90.8%
北谷南部地区	84.3%	0.0%	85.6%	84.7%
庄川平地区	16.8%	30.7%	78.8%	87.2%
新潟地区	30.9%	38.4%	42.4%	74.0%
今町田園地区	4.1%	10.8%	25.6%	33.5%
上北谷地区	0.0%	0.0%	0.0%	48.6%
見附第二小学校区	0.0%	0.0%	0.0%	62.1%



※施設ごとに中央値を算出し、中央値との比較により「高い」「低い」を相対的に評価。

「高い」「低い」は、中央値と最小値又は最大値との差をそれぞれ3等分し、値により色分け。

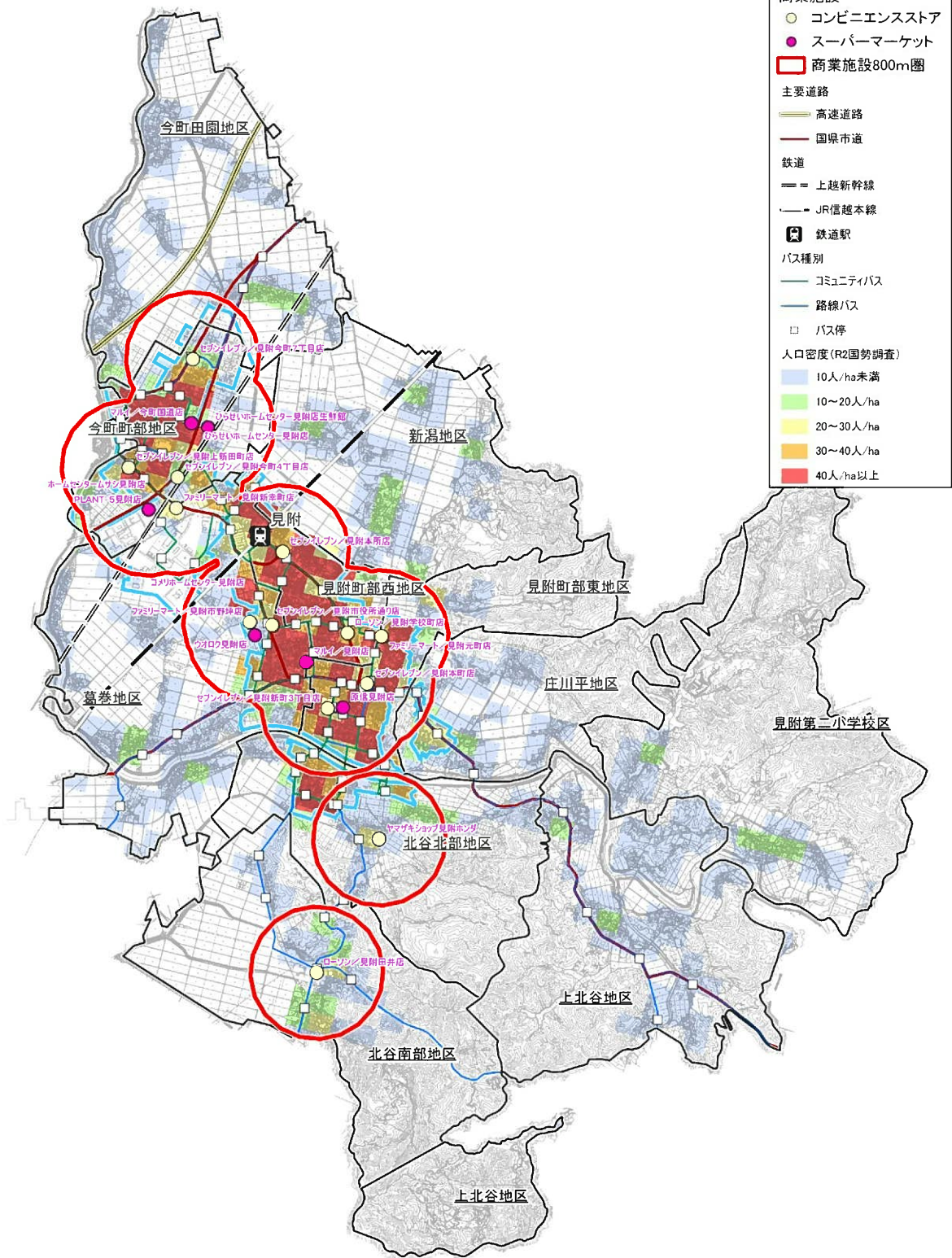
（中央値：施設ごとに、11地区の徒歩圏人口カバー率を順に並べたときに中央になる値）

出典：iタウンページ、市HP

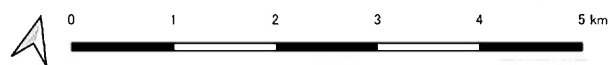
用語の定義

- 【徒歩圏カバー率】 「都市構造の評価に関するハンドブック」を参考に、各種施設から一般的な徒歩圏は800m、高齢者徒歩圏は500mとします
- 【商業施設】 日本標準産業分類に基づく561百貨店、562総合スーパーマーケット、563コンビニエンスストア、565ホームセンターとします
- 【医療施設】 医療法第1条の5第1項及び第2項に基づく「病院」及び「診療所」（歯科を除く）とします
- 【福祉施設】 老人福祉法第15条に基づく「老人福祉施設」のうち、通所系又は訪問系の機能を持った施設とします
- 【交流施設】 公民館、ふるさとセンター、都市公園その他の交流施設とします

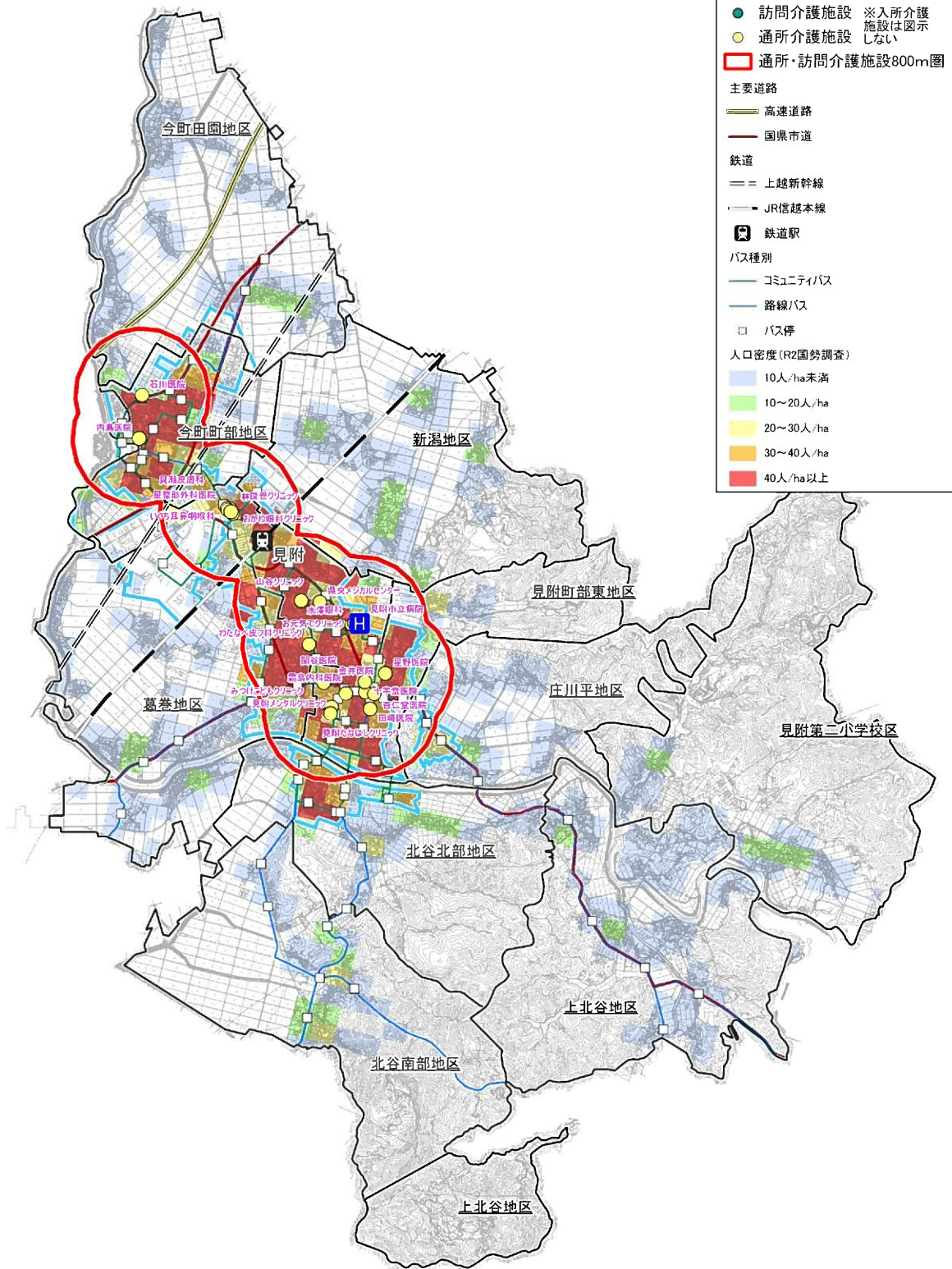
【商業施設徒歩圏カバー率】



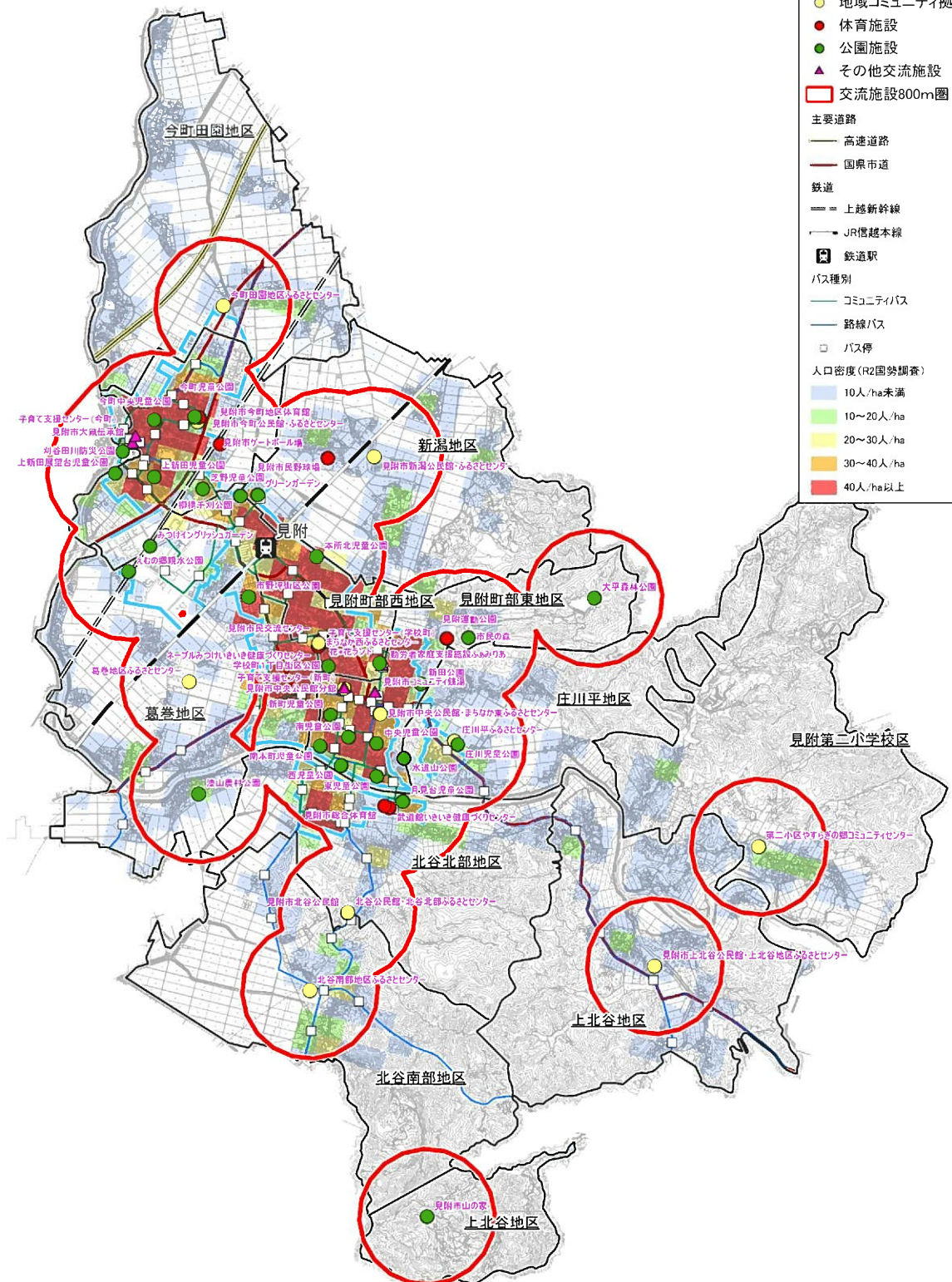
出典：iタウンページ



【通所・訪問介護施設徒歩圏カバー率】



出典：みつけマップデータ



機能	施設	東地区（東地区）	東地区（西地区）	任川平地区	北谷北地区	北谷南地区	東地区	新地区	上北地区	今町・新地区	今町・旧地区
商業機能	コンビニ	ファミリーマート・東附元町店 セブンイレブン・東附本町店 セブンイレブン・東附新町3丁目店	ローソン・東附学校前店 セブンイレブン・東附本町店 ローソン・東附本町1丁目店		ヤマザキショップ・東附ホンダ	ローソン・東附田井店	ファミリーマート・東附新幸町店 セブンイレブン・東附市役所通り ファミリーマート・東附市野原店			セブンイレブン・東附今町4丁目店 セブンイレブン・東附上新町店 セブンイレブン・東附今町7丁目店 ローソン・上新町店	
	スーパー	東附東附店					マルイ・東附店 ウオロク・東附店			マルイ・今町西通店 PLANT・5・東附店 ひらせいホームセンター・東附高生館	
	ホームセンター						コメリ・ホームセンター・東附店			ホームセンター・サムサン・東附店 ひらせいホームセンター・東附店	
	ドラッグストア	ドラッグトップ・東附新町店	クスリのアオキ・本町店 ツルハ・ドラッグ・東附店				ドラッグストア・マツモト・キヨシ・東附店 ドラッグトップ・東附新町店			クスリのアオキ・東附東通 ウェルシア・東附上新町店	
金融機能	日用品・雑貨店	ダイソー・東附北・東附店					セリア・ウオロク・東附店			サ・ダイソー・ひらせい・東附店	
	道の駅									道の駅・ハチオにいがた	
	銀行	本光銀行・東附支店 第四北越銀行・東附支店								第四北越銀行・今町支店 第四北越銀行・今町中央支店	
	信用金庫・信用組合	新潟県信用組合・東附支店 新潟県信用金庫・東附支店	三桑信用金庫・東附支店							はばたき信用組合・今町支店 新潟県信用組合・今町支店	
保育・教育機能	福祉		J.A.にいがた南蒲・東附東通支店								J.A.にいがた南蒲・北越東通セン ター
	郵便局	東附本町郵便局	東附郵便局 東附北町郵便局		杉沢郵便局	北谷簡易郵便局		東田簡易郵便局	上北各郵便局	今町郵便局	
	保育園	すまいる保育園	わかば保育園 みつけの保育園			和泉保育園		すまいる保育園 わかばキッズルーム	ちこし保育園	桜保育園	
	幼稚園										
その他の公益機能	認定こども園	わかぐさ中央こども園	東附市天徳幼稚園 東附みどりこども園			東附どんぐりこ保育園 東附名木野こども園				つくみ幼稚園 ホップこども園	
	小学校		東附市立東附小学校		東附第二小学校	東附市立名木野小学校 東附市立南中学校		東附市立東附小学校 東附市立西中学校	東附市立上北谷小学校 東附市立新海小学校	東附市立今町小学校 東附市立今町中学校	
	中学校		東附市立東附中学校			東附市立南中学校					
	高校		新潟県立東附高等学校 学校法人・中央学園・東附高等学校			東附市立東附特別支援学校					
警察機能	特別支援学校										
	行政施設										
	文化施設・社会教育施設		東附市図書館 みつけ佐々木館			東附市立東附センター		東附市役所 東附市キャラワー 東附市文化ホール（アルカディア）			
	警察機能施設	新町交番				名木野駐在所		東附警察署	太田駐在所	今町交番	
消防機能	消防署							東附市消防本部		東附市消防署・今町出張所	

※高齢者福祉機能の多機能施設は入所施設、通所施設、訪問施設のうち、複数の機能を持つ施設としている。

※運動教室は、運動教室を開催している施設を記載しており、一部他機能の施設と重複している。

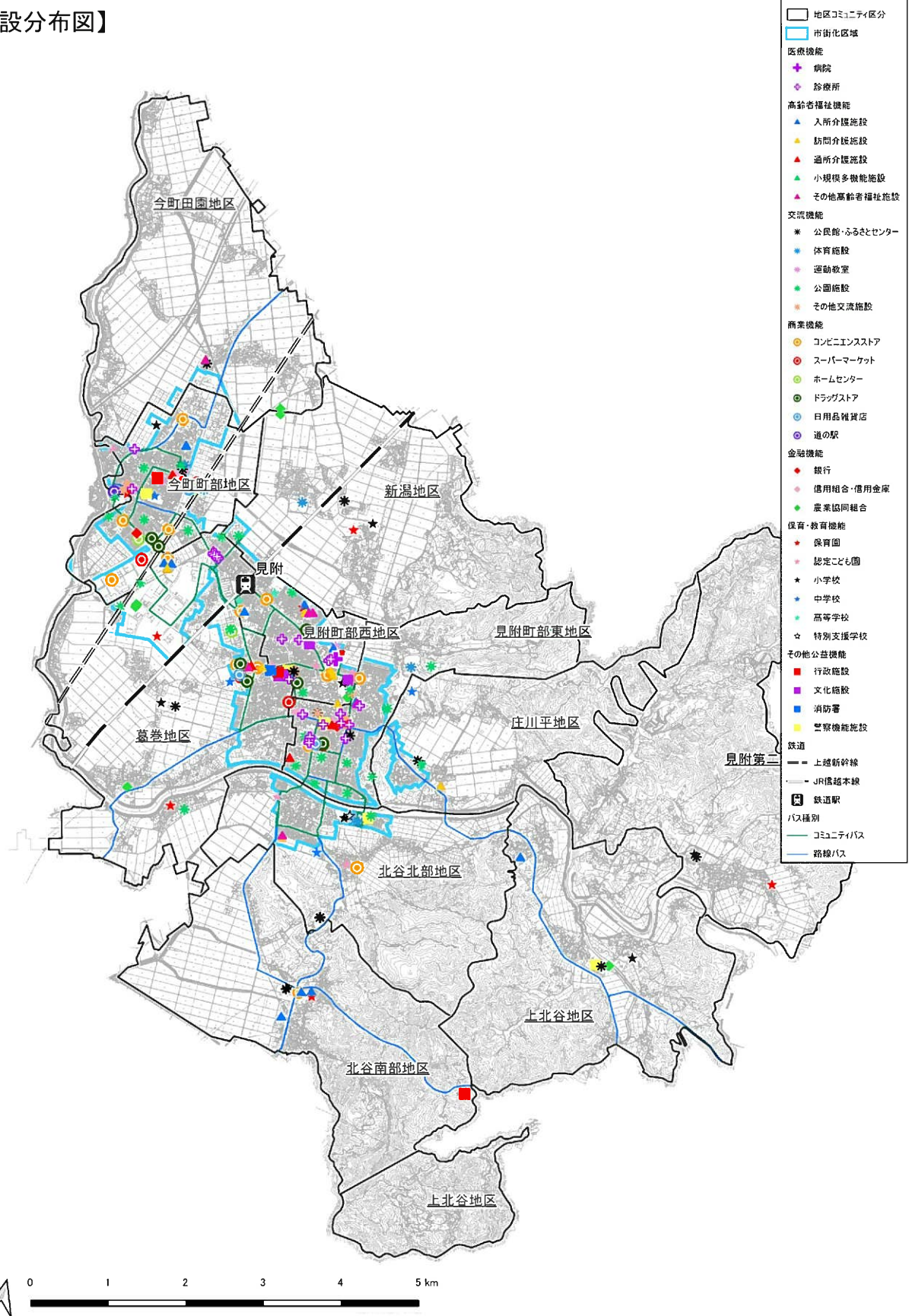
出典一覧

医療機能、高齢者福祉機能、交流機能、保育・教育機能、その他公益機能※：みつけマップデータ（令和5年7月現在）

商業機能、金融機能：iタウンページ（令和5年7月現在）

※警察機能のみ「国土数値情報（警察署）」による

【施設分布図】



出典：医療機能、高齢者福祉機能、交流機能、保育・教育機能、その他公益機能※：みつけマップデータ（令和5年7月現在）
 商業機能、金融機能：iタウンページ（令和5年7月現在）
 ※警察機能のみ「国土数値情報（警察署）」による

3) 移動手段、公共交通サービスの状況

地域コミュニティ別に、通勤時の移動手段におけるグリーンモード（ここでは公共交通、徒歩、自転車を利用した移動手段をグリーンモードとします。詳細は後述の参考資料参照）の割合や公共交通（鉄道駅や路線バス・コミュニティバスのバス停）から徒歩圏に含まれる人口の割合を整理すると以下のとおりとなります。

見附町部東地区や見附町部西地区、今町町部地区は、他地区に比べて公共交通徒歩圏人口カバー率が比較的高く、移動手段の実態を示す通勤移動手段に占めるグリーンモードの割合も他地区より高い傾向になります。

北谷北部地区は路線バスが人口の集積地を通るため公共交通徒歩圏人口カバー率は比較的高くなりますが、実態を示す通勤移動手段に占めるグリーンモードの割合は低く、路線バスはありますが大部分の住民が自動車通勤していることがうかがえます。

新潟地区（見附駅に徒歩で行けるエリアは除く）や今町田園地区、見附第二小学校区では公共交通徒歩圏カバー率が低く、多くの住民がそもそも公共交通を利用しにくい状況であることがうかがえます。

表一 地域コミュニティ別移動手段と基幹的公共交通徒歩圏カバー率

	移動性	
	通勤移動手段の グリーンモード率	公共交通徒歩圏 人口カバー率
見附町部西地区	16.9%	81.1%
見附町部東地区	16.4%	79.4%
今町町部地区	12.3%	85.0%
葛巻地区	12.6%	77.8%
北谷北部地区	6.5%	79.5%
北谷南部地区	9.5%	78.2%
庄川平地区	7.7%	60.0%
新潟地区	8.3%	31.0%
今町田園地区	4.1%	18.7%
上北谷地区	6.9%	46.3%
見附第二小学校区	4.8%	0.0%

移動性別の評価

高い
中間値
低い

出典：R2国勢調査、見附市資料

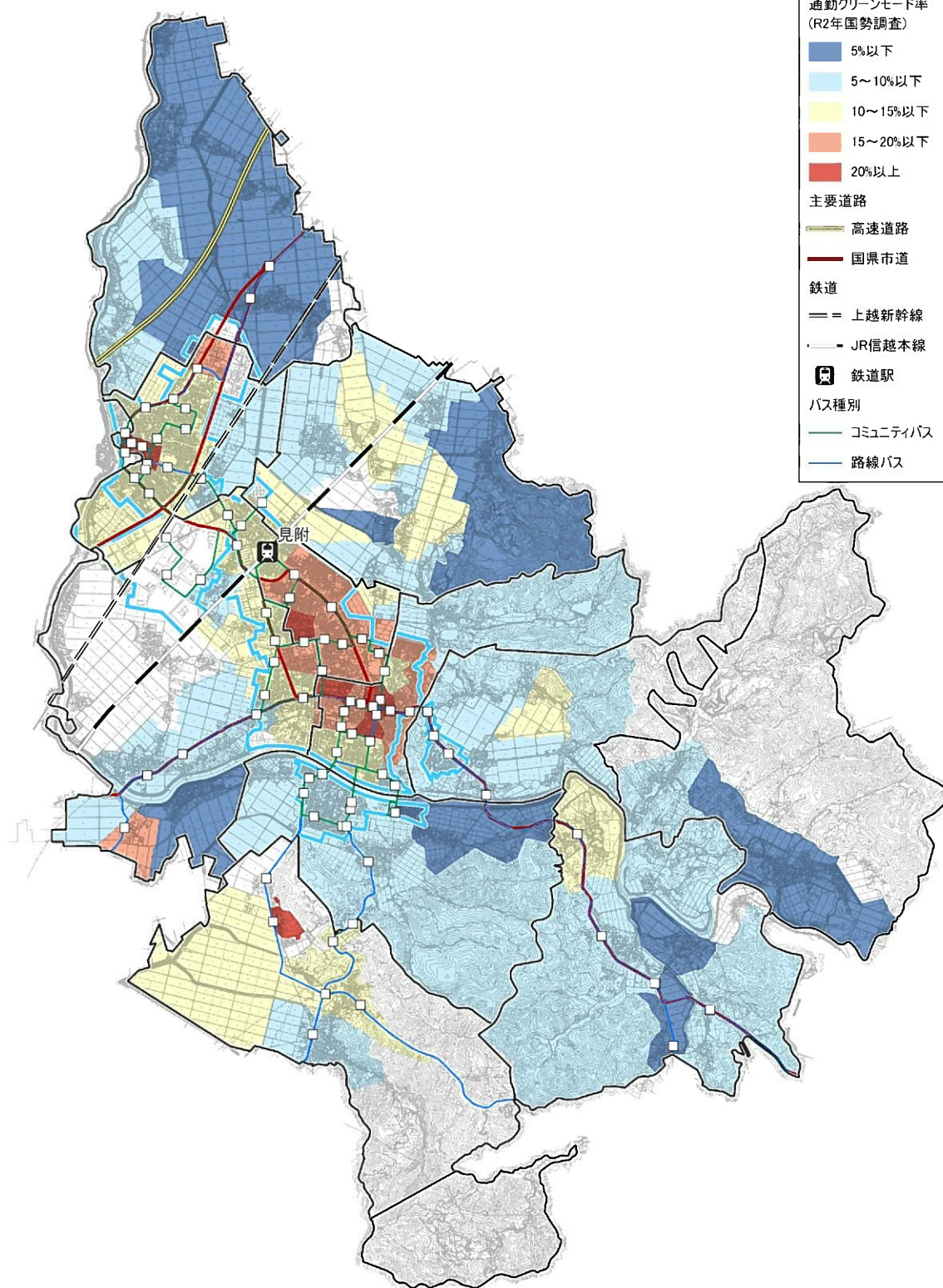
【通勤移動手段のグリーンモード率】

国勢調査の通勤移動手段で就業者のみを抽出したデータのうち、徒歩、自転車、鉄道・電車、乗合バス、勤め先・学校のバスを選択した人が総回答者数に占める割合とします。

【公共交通徒歩圏カバー率】

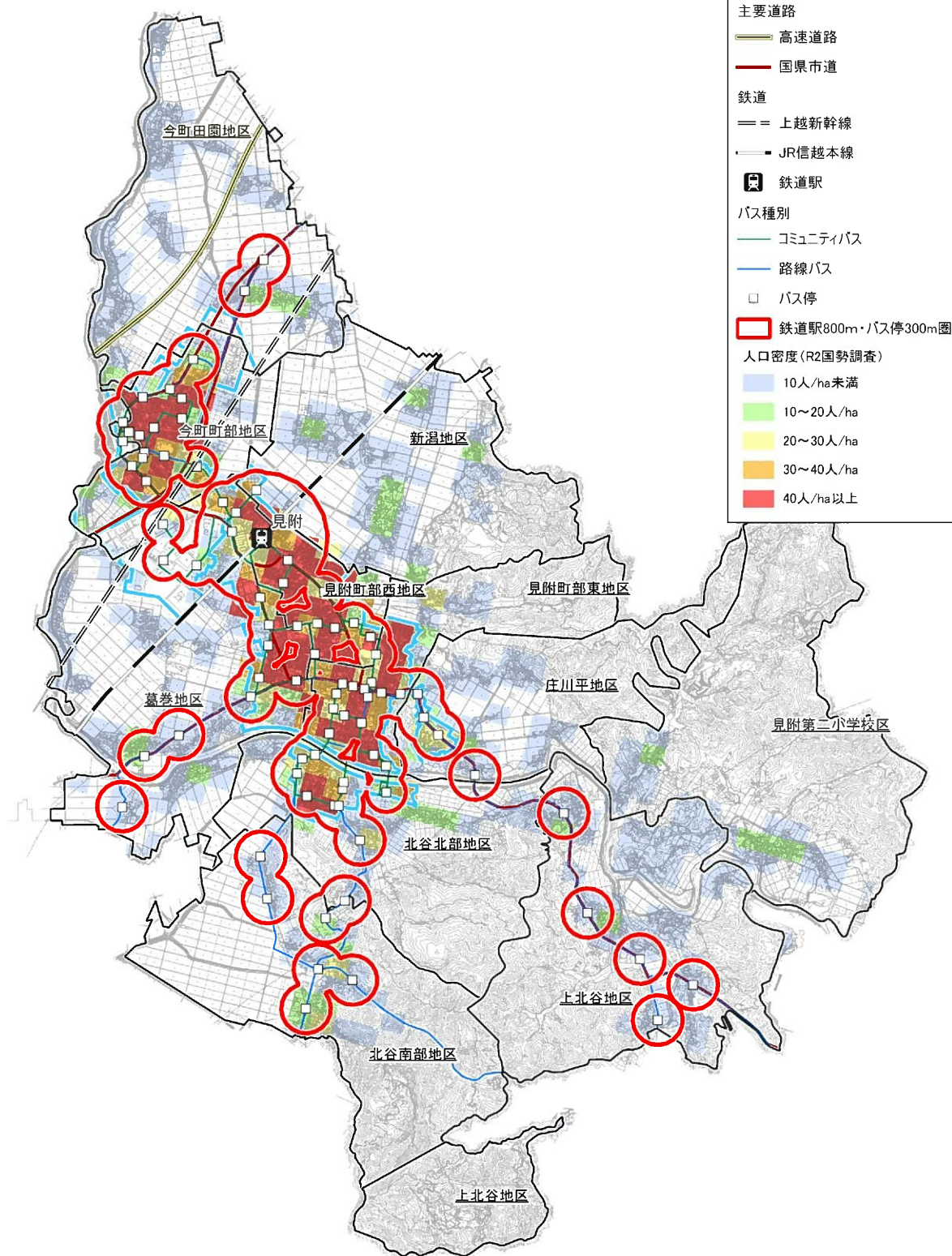
「都市構造の評価に関するハンドブック」を参考に、バス停から 300m、鉄道駅から 800m とします。なお、バス停は運行本数に関わらず全てのバス停を対象とします。

【通勤グリーンモード率】



出典：R2国勢調査

【公共交通徒歩圏カバー率】



出典：見附市資料

参考：国勢調査から取得できる「通勤通学の交通手段」を活用した機関分担率の算出と通勤グリーンモード率について

- ・交通機関分担率についてはパーソントリップ調査データを活用することが望ましいですが、パーソントリップ調査を実施していない・調査年次が古い・小ゾーンの区分が集計したい地区と合わない、などの問題がある場合には、国勢調査の設問である「通勤通学の移動手段」を活用して機関分担率を算出することが考えられます。
- ・自動車に依存しない交通手段（公共交通・自転車・徒歩など）の割合を「通勤グリーンモード率」とし、地区の交通手段特性を表す値として用いることが考えられます。

〈作業手順〉

- ①国勢調査「従業地・通学地による人口・産業等集計に関する集計」の小地域集計データを取得します。（政府統計の総合窓口 e-stat ホームページよりダウンロード可能）
- ②利用交通手段（9 区分）データは就業者と通学者で区分されているため、就業者のみのデータを抽出します。（通学者は一般的に自動車を利用せず、データの偏りが懸念されるため）
- ③選択肢のうちハイヤー・タクシー・自家用車・オートバイ・その他・不詳を除いた選択肢（下表のオレンジに着色した選択肢）の合計値が総回答者数に占める割合を通勤グリーンモード率とします。

（移動交通手段の選択肢は複数回答可であるため、単純に通勤グリーンモードの合計値を総回答者数で割ると 1.0 を超えることがあります。そのため計算式を「総回答者数からタクシー・自家用車・バイク・その他・不詳を除いた値が総回答者数に占める割合」とします。）

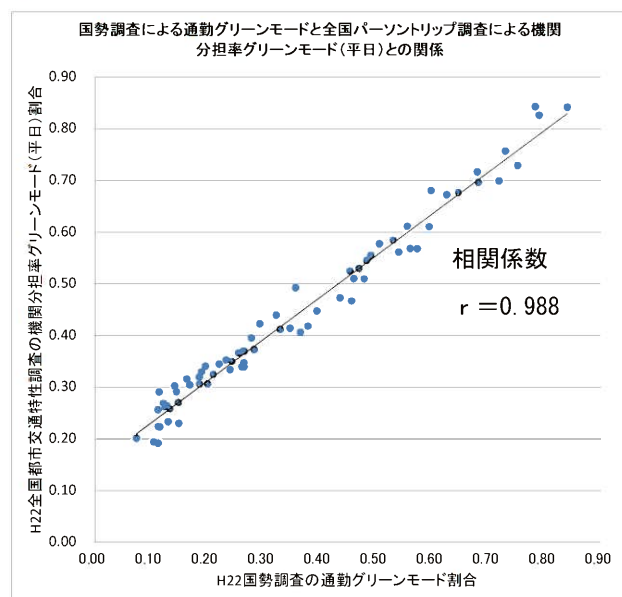
オレンジの選択肢を「通勤グリーンモード」とする

徒歩だけ	鉄道・電車	乗合バス	勤め先・学校のバス	自家用車
ハイヤー・タクシー	オートバイ	自転車	その他	不詳

- ④通勤グリーンモード率は町丁目別に算出されるため、設定した地区区分（小学校区など）に応じて集計します。

〈パーソントリップデータ（PT）との相関の確認〉

- ・H22 年国勢調査による通勤グリーンモード率と H22 年全国 PT 調査によるグリーンモード率（平日）との間には相関係数 $r = 0.988$ と極めて高い相関があります。
- ・そのため、国勢調査による通勤グリーンモード率を当該都市の交通手段の状況（あくまで概況）を表す指標として用いることは差し支えないと考えられます。
- ・ただし PT と国勢調査のグリーンモード割合の値には 8% 程度の誤差が見られるため、国勢調査で得られる移動手段割合を PT 調査における機関分担率と同義に扱わないよう注意する必要があります。



4) 高齢者の外出率や地域活動の状況

高齢者（65 歳以上）の外出率や地域活動の状況に関する調査として、第 9 期介護保険事業計画の策定時に実施している「日常生活圏域ニーズ調査」のデータを活用して地域コミュニティ別に整理します。

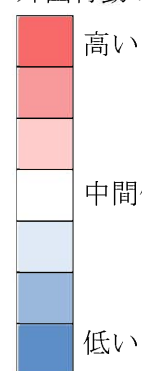
外出行動を見ると、令和 4 年時点では人口密度が高く、生活サービスに係る施設や公共交通が比較的充実した見附町部地区や今町町部地区、葛巻地区、北谷北部地区において高い傾向にあります。また、週 1 回以上の外出割合を見ると、平成 23 年から令和 4 年にかけて、市全体として外出する人の割合が増加しています。

交流活動を見ると、外出行動とは逆の傾向が見られ、何らかの地域活動に参加している人の割合は、令和 4 年時点で見附町部地区や今町町部地区等の都市部よりも村部の地区で割合が高い傾向にあります。また、平成 23 年から令和 4 年にかけて、地域活動に参加している人の割合は増加・減少のどちらも見られますが、特に平成 23 年で割合が低かった見附町部地区及び葛巻地区は大きく増加し、地域コミュニティ活動が活発化していると考えられます。

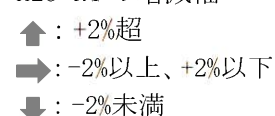
表一地域コミュニティ別 高齢者の外出行動や交流活動

項目	外出行動			交流活動	
	週に 1 回以上は外出している人の割合		外出する際徒歩の機会がある人の割合 (参考)	何らかの地域活動に参加している人の割合	
時点	H23	R4	R4	H23	R4
見附町部西地区	90.3%	➡ 89.8%	54.7%	55.5%	⬆ 61.7%
見附町部東地区	88.4%	➡ 90.2%	50.9%	56.2%	⬆ 59.8%
今町町部地区	87.6%	➡ 88.8%	48.8%	58.1%	➡ 56.3%
葛巻地区	89.3%	➡ 90.3%	51.5%	62.4%	⬆ 68.0%
北谷北部地区	90.5%	⬆ 94.0%	34.0%	61.5%	➡ 62.0%
北谷南部地区	87.5%	⬇ 81.8%	40.9%	71.3%	⬇ 68.2%
庄川平地区	88.2%	➡ 87.5%	37.5%	57.7%	⬇ 54.2%
新潟地区	85.7%	⬆ 92.3%	30.8%	77.0%	⬇ 61.5%
今町田園地区	81.1%	⬆ 90.0%	33.3%	70.3%	➡ 70.0%
上北谷地区	85.1%	➡ 84.2%	36.8%	71.1%	⬇ 68.4%
見附第二小学校区	78.2%	⬆ 90.0%	20.0%	66.7%	⬆ 90.0%

外出行動等の評価



H23-R4 の増減幅



出典：日常生活圏域ニーズ調査

※令和 4 年実施の日常生活圏域ニーズ調査では、地域コミュニティごとの回答数が少ない地区（北谷北部地区、北谷南部地区、庄川平地区、新潟地区、今町田園地区、上北谷地区、見附第二小学校区）があり、それらの地区の値は参考値とする（次頁「日常生活圏域ニーズ調査の概要」を参照）

【日常生活圏域ニーズ調査概要】

1. 調査目的

第9期介護保険事業計画を策定するにあたり、高齢者の健康状態や日常生活等、地域の実情を把握し、介護保険サービスや福祉サービス、また健康づくり事業の一層の向上を図るための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査方法

本調査は、要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者を対象に、令和4年12月～令和5年2月まで実施しました。調査方法等は次のとおりです。

調査名	日常生活圏域ニーズ調査
調査対象者	要介護認定を受けていない65歳以上の市民から無作為抽出
調査基準日	令和4年12月1日
調査件数	1,000件
調査方法	郵送による配布・回収

3. 回収結果

また、調査票の配布・回収状況は、以下のとおりです。

調査名	配布数	有効回収数	回収率（％）
日常生活圏域ニーズ調査	1,000	615	61.5

4. 地域コミュニティ別集計

地域コミュニティ	回答数
見附町部東地区	112
見附町部西地区	128
今町町部地区	80
葛巻地区	103
北谷北部地区	50
北谷南部地区	22
庄川平地区	24
新潟地区	13
今町田園地区	30
上北谷地区	19
見附第二小学校区	10
合計	591

5) 医療費や健康状態の状況

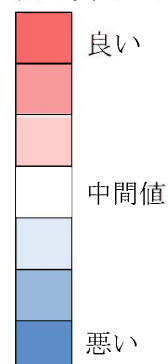
地域別の医療費や健康状態を把握するため、本市が保有する国民健康保険加入者のレセプトデータを地域コミュニティ別に集計し、1年間の一人当たり医療費や糖尿病患者割合、高齢者のBMIを算出します。

おおまかな傾向として人口密度が高く公共交通や日常生活に必要な施設が充足した地区の方が、そうでない地区よりも一人当たり医療費が低い傾向が見られます。糖尿病患者割合やBMIはその傾向が顕著ではありませんが、人口密度が低い今町田園地区では、糖尿病患者割合やBMIも悪い値となっています。

表一地域コミュニティ別 健康状態

	医療費	健康状態	
	国保加入者の 一人当たり 医療費	国保加入者に 占める 糖尿病患者割合	BMI25未満 の人の割合
見附町部西地区	¥285,432	25.8%	73.8%
見附町部東地区	¥333,084	21.6%	75.5%
今町町部地区	¥291,494	22.8%	75.1%
葛巻地区	¥323,694	20.5%	78.7%
北谷北部地区	¥370,045	23.9%	76.0%
北谷南部地区	¥423,917	22.9%	71.4%
庄川平地区	¥262,515	23.3%	80.0%
新潟地区	¥349,048	24.8%	77.2%
今町田園地区	¥405,624	35.2%	71.9%
上北谷地区	¥337,702	21.0%	79.6%
見附第二小学校区	¥420,086	30.4%	81.8%

医療費等の評価



出典：R4レセプトデータ

※75歳以上の方は後期高齢者医療制度に移行するため、国民健康保険加入者レセプトデータには含まれていません。

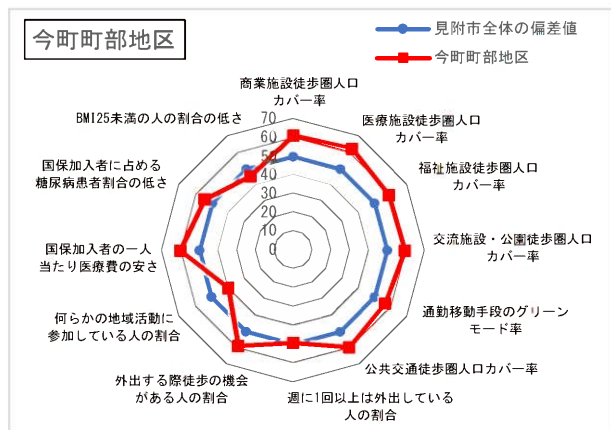
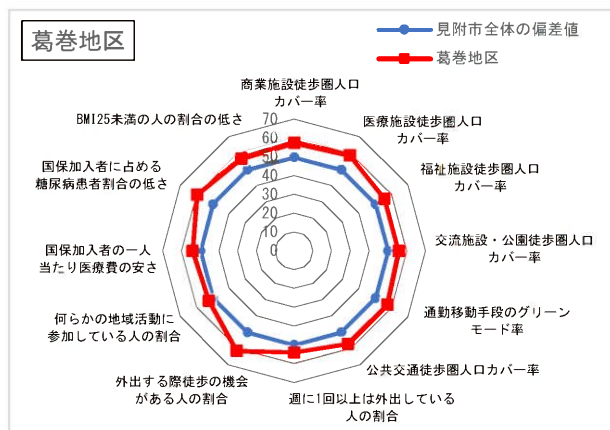
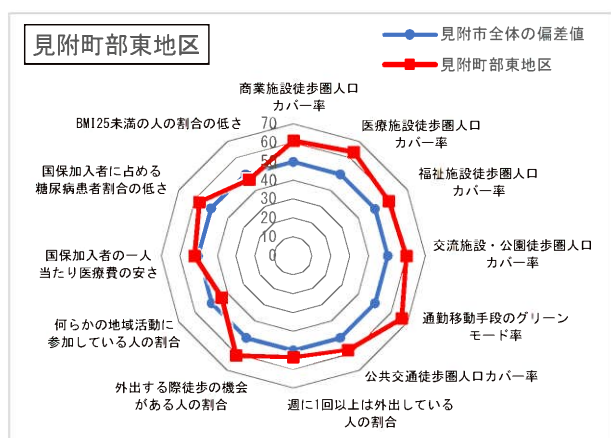
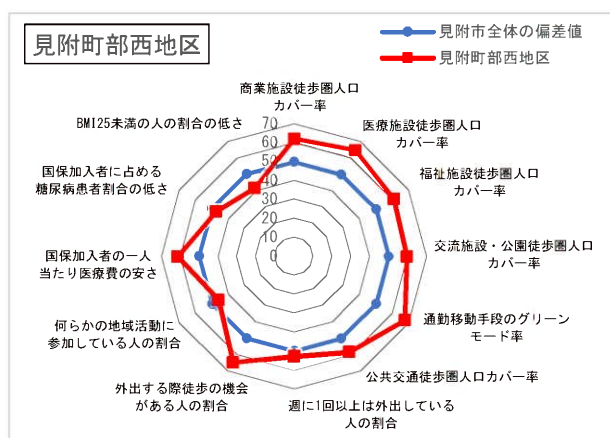
6) 地域コミュニティ別の状況

収集したデータを偏差値化し、本市全体を偏差値 50 として以下のようなグラフで表すと、地区によってどのような項目で値が低いか（課題があるか）が把握されます。

① 大部分が市街化区域となる地区

大部分が市街化区域となる地区では基本的に公共交通や施設の充足度が高く、高齢者の行動や健康医療の状況は比較的良好な地区が多い傾向にあります。

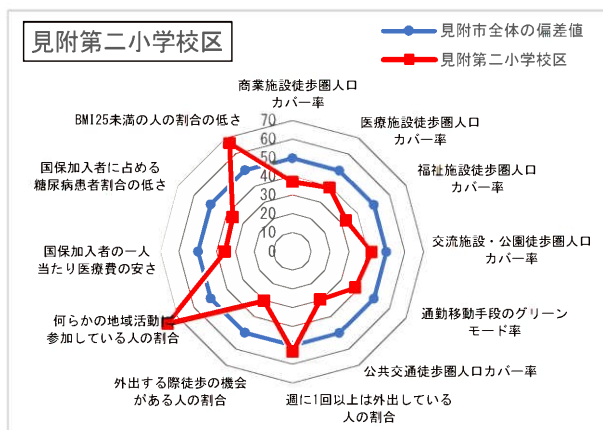
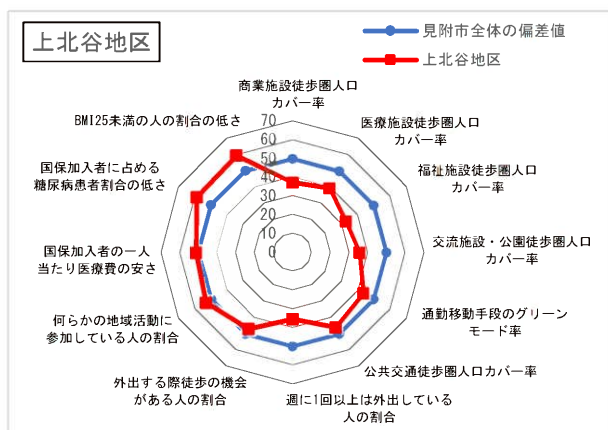
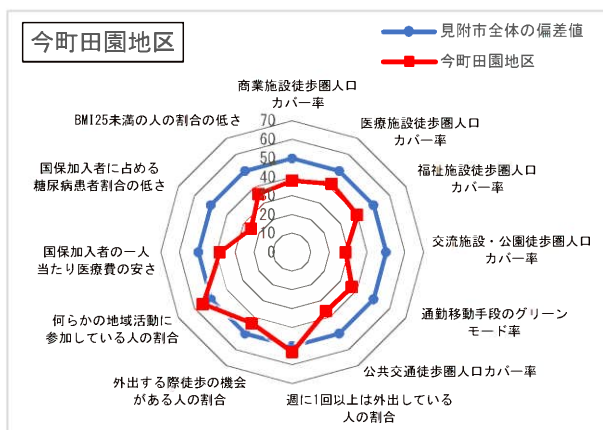
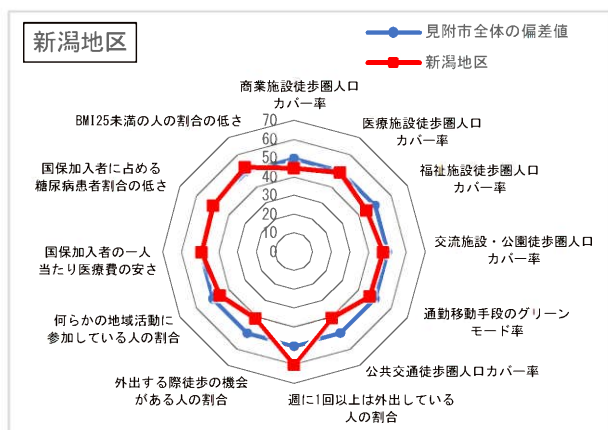
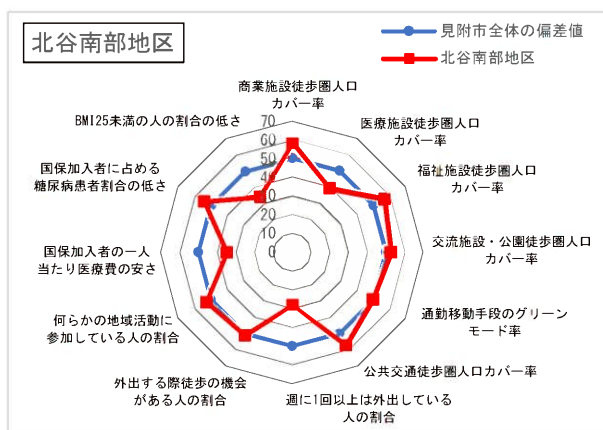
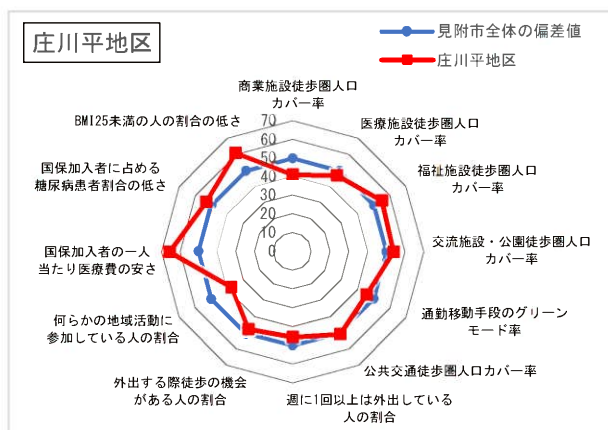
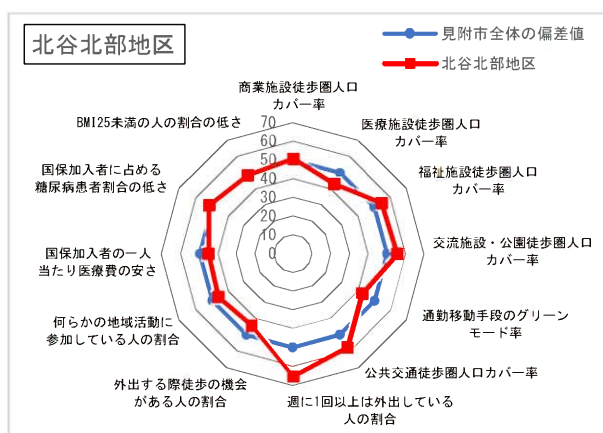
ただし見附町部地区や今町町部地区では地域活動に参加している人の割合が市の平均よりも低くなっています。このような地区では、まちづくりにおいても地域の人々の交流の場となるような歩行空間や広場を形成し、それを地域でマネジメントしていくことを通じて地域のコミュニティを活性化させるような仕組みが求められます。



② 大部分が市街化調整区域となる地区

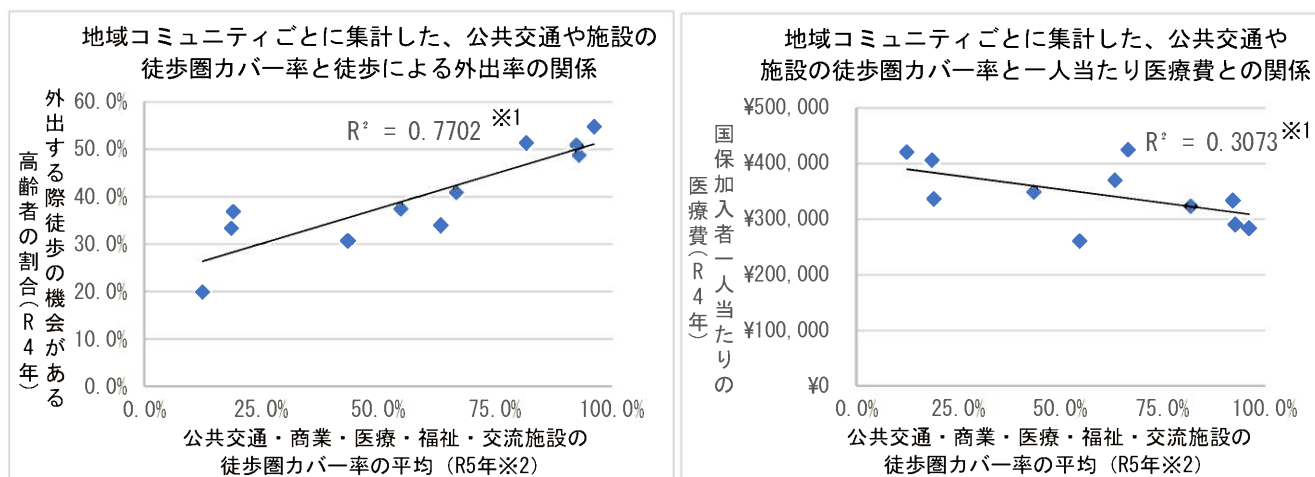
大部分が市街化調整区域となる地区では公共交通や施設の充足度が高くありません。これらの地区では、地域コミュニティと行政・企業等が連携し、持続可能で実情に見合った小さな拠点（生活に必要な機能を複合的に備えたもの）や移動サービス等を運営していくことが望ましいと考えられます。

また、地域が持続できるよう地域コミュニティの中で居住もできるだけ集約していくことが望ましいと考えられます。



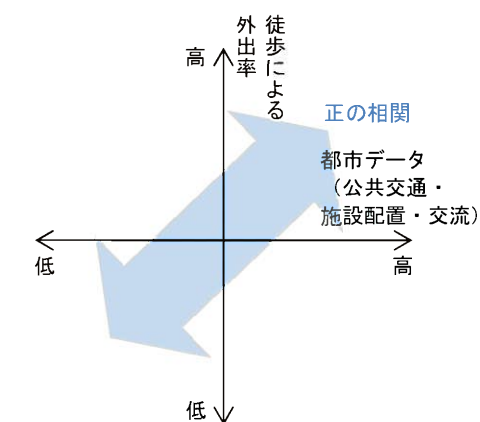
(3) 都市の状況と外出活動や医療費との関係からみた健康まちづくりの必要性

ここまでで整理した都市のデータ（公共交通や施設の充足度等）と高齢者の行動データ（外出率や地域活動等）、健康医療データ（一人当たり医療費等）との関係性を分析すると、大まかな傾向として、人口や居住地が集積して公共交通・生活サービス施設の充足度が高い地区は、そうでない地区に比べて高齢者の徒歩による外出率が高く、一人当たり医療費が安い傾向がみられます。

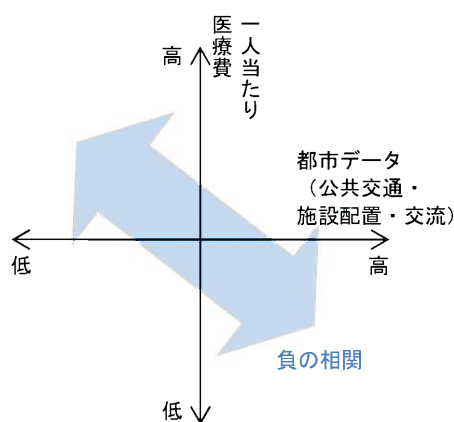


※1. ◆の印ひとつひとつが各地域コミュニティ（計11の地域）を表します。 R^2 はデータ間の相関関係を示し、1に近いほどデータ間の相関関係が高いと言えます。（ただし因果関係までを示すものではありません）

※2. 各施設の徒歩圏カバー率の算出に用いた人口は「R2年国勢調査」



地区別にみた都市データと徒歩による外出率との相関イメージ



地区別にみた都市データと一人当たり医療費との相関イメージ

この分析より、以下のことが言えます。

■都市構造をコンパクトにし、公共交通や生活サービスに関わる施設の利便性を高めることは、人口減少・高齢化に対応した持続可能なまちにするためだけでなく、市民が健康になるためにも有効と考えられます。



本市が目指す「スマートウェルネスみつけ」の実現のためにも、立地適正化計画による都市機能や居住の誘導と公共交通施策が必要